

県政情報

日本共産党茨城県議会議員

鈴木さとし

樋口973-5 ☎24-0278 (fax 兼)



大雪被災農家への支援で県に申し入れ 県は「災害条例」を上回る支援策を発表

3月5日、党県議団ならびに筑西市議団は連名で、県知事宛に被災農家への県としての支援策を求める、申し入れを行いました。

鈴木県議は応対した県農業経営課に「県の『農林漁業災害対策特別措置条例』適用の他に、甚大な被害のため県独自の支援強化を」と訴えました。県の担当者は「検討する」と答えました。

その後3月20日、党県議団に農業経営課から「被災農家への追加支援策を決定した」旨

の報告がありました。その内容は、①被災した施設の撤去費用は全額公費負担(国50%、**県25%**、市25%) ②被災した施設の復旧費用は個人負担が10%(国50%、**県20%**、市20%)です。



↑県に申し入れる鈴木県議(右側) 大内県議(中央)

★県が中小企業の経営改善支援で借換融資制度を創設

県の融資制度を2口以上利用している債務の一本化により、月々の返済負担を軽減するものです。その手続きで新たな借入はできません(運転資金で期間は10年以内。取引先の金融機関にお問い合わせ下さい。4月1日から実施されます)。

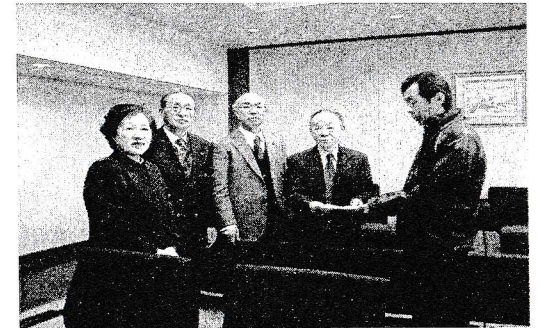
念願の新中核病院が建設に向かってスタート —市は「基本構想」作成業務を発注—

筑西市が整備運営することで桜川市と変更合意した新中核病院(300床規模の病院で、地域の2次救急医療を完結し、3次救急医療をめざす病院)で、市は早速、3月20日に病院建設の青写真ともいえる「基本構想」作成の入札を行い、(株)病院システムに業務を委託しました。

「基本計画」についても作成の準備を進めています。さらに市は「建設推進会議」(仮称)についても医師会や大学病院関係者への参加依頼の準備を進め、遅くとも5月頃までには開催したい意向です。

【新中核病院建設に着手にいたる、この間の経過】

- 2月4日**—筑西・須藤市長は、昨年12月13日の合意に基づき、桜川・大塚市長に、早急に「建設会議」の発足を要望。
- 2月14日**—桜川市長は、上記に対する回答書を送付。内容は県西総合病院存続が前提でなければ応じられないというもの。(その後、2月21日に筑西市長は、桜川市長の回答に対して、県西総合病院の運営からの離脱を表明)
- 2月20日**—鈴木県議、加茂・三浦両筑西市議、菊池・桜川市議は新中核病院建設前進のため、知事宛に要望書を提出。(上写真・右から2人目が鈴木県議)
- 3月1日**—事態打開のため県が仲介となり、両正副市長は、新中核病院と県西総合病院の両立で、決着することに合意。
- 3月5日**—筑西、桜川両市議会の議員全員協議会で、それぞれ3月1日の両正副市長の合意内容を了承。
- 3月9日**—両市長が前合意書を変更した合意内容に調印。
- 3月20日**—筑西市は新中核病院の「基本構想」作成の入札を行い、建設実現にむけて着手。



私も郷土史を学んでいます(その2)

江戸時代初期、旧下館市にも檀家がある真岡市長沼(旧二宮町)の宗光寺を、七代下館城主・水谷勝俊が再興するとき、天海大僧正を開基として招いている。それが縁で、勝俊の子で後の八代城主になる勝隆は、天海大僧正と親しくなる。